

黄綬褒章の受章おめでとうございます

ふれあい雪谷をご愛読のみなさんこんにちは。

今号の記事は、編集委員の私が、令和三年春の受章で「黄綬褒章」を受章されました東雪谷二丁目にお住まい、仲池上二丁目(株)上島熱処理工業所に勤務されている安河内秀樹さんにインタビューし、ご本人に受章の経緯や仕事の内容等についてお伺いしました。

編集：安河内さんこんにちは。私は、安河内さんと初めてお会いしてから8年程経過していると思っていますが、受章のことをつい最近まで存じ上げず失礼いたしましたというか、正直ビックリしています。

安河内：実は、金属の熱処理技術は、国内では比較的少ない技術の世界で、大田の工匠・東京マイスター認定・そして厚生労働大臣表彰「現代の名工」と、勤務先と私の技術に認定の輪が拡がり受章に至ったものと思っています。

編集：それにしても、若くして大変栄誉なことかと思いますが、私達の認識では、受章を受けられる方々は人生の大先輩という思いが強いのですが、やはり勤務先の技術革新と伝承の意欲が強く影響しているのかと感じます。

（インタビュー後の感想）

勤続30年と若くして「黄綬褒章」受章を成し遂げた自信と(株)上島熱処理工業所様の人材育成・技術の伝承の熱意を感じ取れたインタビューでした。

また、ご本人も地域の消防団員で活躍、勤務先の地域では「まつり」「奉納すもう」「納涼おどり」の祭礼委員・実行委員をお務めになるなど、その貢献にも頭の下がる思いです。

株式会社 上島熱処理工業所：日本を代表する金属熱処理界をリードする企業。創業昭和31年、昭和34年6月に現在の大田区仲池上二丁目へ。「現代の名工」3名を擁し、お一人が安河内さん。現会長も「黄綬褒章」を受章、「旭日単光章」も叙勲されています。

金属熱処理とは…なかなか奥深い世界ですが、簡単に記します。

金属を加熱して冷却することで、金属の組織変化を目的に合わせ活用することです。例えば、身近なところで「包丁」などいろんな物を切る用品です。少し専門的になりますが、使用する目的により、主に「鋼材」を加熱・冷却して加工します。例：鉄を硬くしたい。鉄を粘り強くしたい。鉄を摩耗しにくくしたい。

熱処理の種類：1.焼き入れ 2.焼き戻し 3.焼きなまし

熱入れの種類：1.浸炭焼き入れ 2.真空焼き入れ 3.高周波焼き入れ

最後に、この熱処理の技術で話題になった、冬季オリンピックのボブスレー競技で、大田区のモノづくりの多くの技術者が知恵を出し製作、「下町ボブスレー」として話題となりました。

（上池上・船山 康夫）



勝海舟と坂本冬美さん

「洗足池です。」

「どちらにお住まいですか？」と尋ねられてこう答えるようになってから、50年以上経った。だが、その後の会話で、勝海舟に触れる人は少ない。最近、記念館が整備され、墓も整備されている勝海舟。洗足池とは切り離せない関係だ。資料によると海舟の生涯は75程度。洗足池との関連は私の方が長いかも。

ところでもう一人、坂本冬美さんについて知っていますか？

唄の師匠・猪俣公章が洗足池に居を構えており、田舎から出てきた坂本さんは修業時代、住み込みで指導を受けたため、洗足池周辺が練習場だったとのこと。うれしい時、悲しい時、洗足池公園の公用電話から田舎に電話していたという。それだけで坂本冬美さんのファンになってしまった。

さて、次に洗足池と関連する有名人は貴方も知れませんよ。

（池の台・丸山 隆平）

雪谷地区の表彰者

○令和3年度東京都功労者表彰

永久保 孝治

○令和3年度統計功績者表彰（令和2年国勢調査）

穂苅 フジ

○令和3年度さくら功労者

森信 節子

○令和3年度大田区青少年対策地区委員会永年功労者表彰

辰巳 邦子 伴 歩 須網 俊一

（敬称略）

＊＊編集後記＊＊

皆様新年あけましておめでとうございます。今年も引き続き新型コロナウイルス感染症には油断なく注意が必要です。

「ふれあい雪谷」新年号をお届けすることが出来ました。皆様からの投稿ありがとうございました。実は私勤務の都合で編集会議に欠席がちで編集委員の方々にもご迷惑をおかけしながらの発刊でした。今年は毎回出席できるようがんばります。

今年もよろしくお願い申上げます。

（上池上・船山 康夫）

[編集委員]

笛丸・小久保 衡子／雪谷石川台・倉田 清子／南雪谷・河野 洋一郎／
東雪谷東中・小山 智恵子／池の台・柏 三八子／小池・小山 憲生／上池上・船山 康夫

ふれあい雪谷(創刊:平成2年12月20日) 年4回発行
(1月・新年号／4月・さくら号／7月・あさがお号／10月・もみじ号／1月1日発行)

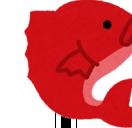
[発行日] 令和4年 新年号 1月1日(通巻第125号) 発行

[発行] 地域力推進雪谷地区委員会 [編集] ふれあい雪谷編集委員会

[連絡先] 大田区地域力推進部雪谷特別出張所

〒145-0065 大田区東雪谷三丁目6番2号 ☎3729-5117 FAX3729-1826

地域情報紙



ふれあい
雪谷

令和4年1月 新年号 通巻第125号



「みんなの笑顔」
さくらさくみらい石川台園
5歳児クラスの皆さん的作品



「ふれあい雪谷」のホームページは
こちらからご覧いただけます。



雪谷地区自治会連合会会長就任あいさつ

明けましておめでとうございます。令和3年6月、田中英雄前会長からバトンを引き継ぎ雪谷地区自治会連合会会長に就任しました海老澤信吉です。このような重責を担うには汗顏の至りですが、皆様方のご支援とご協力を仰ぎながら、今後の活動に励んでまいりますのでよろしくお願ひいたします。

猛暑の中オリンピック・パラリンピックで盛り上がっている頃、新型コロナの感染者もピークになりましたが、ワクチン接種の効果でしょうか感染者が激減しました。ただ第6波も懸念されていますので、引き続き3密の回避など危険性が高い行為は避けたいと思います。

さて、雪谷地区最大の行事であるスポーツまつりも2年続けて中止したのをはじめ、各自治会でも会議・打ち合わせも中止・延期が続いています。そのような中でも、自治会費の集金や各種募金活動などしていただきました。会議や打ち合わせなどにも感染対策をしながらの活動に感謝を申し上げます。

私は上池上に生まれずっと住んでいて感じるのは、子供の頃には大きな家や、まだ畠や田んぼがあり緑も多くありました。時代が進むにつれて、大きな土地が4軒5軒に分割され、工場のあとにはマンションが建設され、人口が急激に増えてきました。近所の顔も覚えきれないほどになりましたが、地域の繋がりは希薄になったように感じ、役員のなり手は減少気味です。

コロナが猛威を振るったため、活動が休止状態になり、以前と同じような活動をするのは無理のように思いますが、感染対策に留意しながら、できることを徐々にでも進め、特別出張所と連携を密にし、これまでしてきた行事のうち、何ができるかを再検討していきます。

明けない夜はありません。そう遠くない時期に必ず明るい未来が開けるはずです。まずは3密回避と感染対策をしながらコロナ禍でも人と人とがつながり、助け合える地域になるような活動をして参ります。

コロナが終息し、マスクなしの生活に1日も早く戻ることを願い、今後もご協力をよろしくお願いし就任のご挨拶といたします。

(雪谷地区自治会連合会会長・海老澤 信吉)



●自治会に加入しませんか●

自治会・町会は防災訓練や防犯防火パトロールなど地域をよりよくする活動をしています。法人も加入できます。

雪谷地区の自治会についてはこちらからご覧いただけます。



マスクの下は口呼吸! そしてお口がゆるんでいるかも…



マスクでの生活スタイルがスタンダードになった今、マスクの下はポカンと口元が緩み、息を吸い込みやすい口呼吸になっていませんか？ 無意識にしてしまう口呼吸によって、心身に様々な健康トラブルを引き起こしてしまう可能性があります。

マスクのフィルター機能があるから、口呼吸でも安心だと思われがちです。口呼吸により口の中が乾燥した状態が続くと、虫歯や歯周病のリスクが増加します。また、咽頭粘膜や扁桃への乾燥刺激により慢性炎症が起きやすくなり、いびきや睡眠時無呼吸症候群の原因になるでしょう。表情筋のたるみ、口唇の荒れなどにも影響しそうです。そして、口呼吸は浅い呼吸になりますので、脳や体に酸素が行き渡らなくなり、心身は常に緊張状態を強いられストレスを感じやすくなります。その影響で歯ぎしりが増えるかもしれません。

鼻から吸った空気は、鼻腔を通過することで温められ加湿されるので、鼻呼吸は肺や喉の粘膜の負担を軽減します。鼻の奥の粘膜の働きで、空気中のウイルスや細菌の侵入を防いでくれます。また、鼻から吸った空気は脳を冷やすので、頭がスッキリします。

マスク生活で口呼吸が増えると、鼻機能が低下しているかもしれません。鼻を使うためには口を閉じて舌を上顎にくっつける必要があります。意識して鼻呼吸で深呼吸をしてみてください。

最後に、「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味が込められている令和、コロナ後はそんな時代が続いていくことを切望します。

(南雪谷・星デンタルクリニック 星 啓行)

コロナ禍の生活

私は今2匹の犬と暮らしている。コロナ禍で外出も控え、恒例のお正月お泊りもキャンセルして自粛の中、昨年の5月にジャックスパロウ君が4才で他界、10ヶ月の闘病生活の末でした。コロナ前の令和元年母が6年間の介護の後、他界、勤めに出ながら母の世話をし、認知症による暴言に耐えられたのも2匹の犬達のお陰です。

私の子供は2人共独立して当時3名の孫達と出掛けたり、交流が密でした。母の四十九日迄は皆で集まれたのですが、それ以降は一周忌三回忌とお寺の本堂で私ひとりスマホで動画を撮り子供達に説教の配信。孫が5名に増えたが出生御祝に病院にも行けず、お宮参りの際には神社の境内で私ひとり待機したり…皆さんもそうだと思いますが人生の中でこれだけ長い期間行動を制限されたことは初めてです。その限られた中での唯一の心のよりどころが、私にとっては2匹の犬達なのです。今、ジャックの後輩犬を迎え、やはり犬と3人暮らしをしています。

どうかコロナが収まり、元通りの生活が戻りますよう心から祈る毎日です。

(笹丸・菅井 淳子)



熊本県人吉市 復興の現場から

■令和2年熊本南部豪雨による球磨川氾濫

令和2（2020）年7月3日から4日にかけての熊本南部豪雨により、県最南部に位置する人吉市内では最大時間雨量100mm、累計総雨量500mm超を記録しました。この豪雨で市内を流れる球磨川本流及び支流で堤防決壊や越水が多発し、約518ha（東雪谷1～5丁目と南雪谷1～5丁目の合計面積約165haの3.1倍）に及ぶ広範囲で深刻な浸水被害が発生しました。

■市内の被災状況

人吉市内では浸水被害のほか、護岸の崩落、橋りょう流出、道路や鉄道の損壊など多岐に渡る被害が発生。20名の人命が犠牲となるとともに、市全体のほぼ2割にあたる3,360世帯が住まいに何らかの被害を受け、令和3（2021）年2月末時点で約1,000世帯が応急住宅（仮設住宅等）での生活を余儀なくされています。

浸水で全壊や大規模半壊した住宅解体が進んでいるものの、改修あるいは建て直して同じ場所に住み続けている方は多いのは、集落そのものが全て流されて高台移転が進められた東日本大震災被災地とは異なる風景です。

■復興まちづくりの現場

災害発生からほぼ半年後の令和3（2021）年1月より、特に被害の大きかった市内の8地区で市民と行政（市、県等）による復興まちづくりの検討が進められています。私は、勤務先の会社が人吉市から受託した復興まちづくり計画策定支援業務の担当技術者として、被災地の皆さんとの検討作業をお手伝いしています。各地区でほぼ毎月1回、集会所などに有志が集まり、被災して空き家が多くなった街並みやコロナ禍も相まって大きな影響を受けた産業をどのように再生させるのか等熱い議論が交わされています。ただ、様々な治水対策が全て実施されるまでは再度の浸水被害が起きる可能性があるため、住み慣れた場所を離れる人も出てきており、地域コミュニティの維持が大きな課題です。

災害からの復旧・復興で最も重要なことは“スピード感”で、どんなに立派な計画を立てても、実現までに時間がかかるのはNGです。災害復興というのは、言わば“待ちきれなくて、折れていく心”との競争のようなもので、目に見える形で着実に実現していくことが求められます。人吉市でも、壊れた堤防や橋などインフラ整備が進む中、そこに住む人々が復興後の将来イメージを共有することが重要で、このような地道な話し合いの積み重ねが“心の復興”につながっていきます。

■災害は“対岸の火事”ではない

我が国は、災害が『起るかどうか』ではなく『いつ、どこで起るか』のレベルの災害大国です。人吉市で氾濫した球磨川支流の中には、実は雪谷地域を流れる呑川よりも細い小河川もありました。災害は“対岸の火事”ではないことを認識しておくことが重要です。

(東雪谷東中・矢倉 信行)